

平成18年7月5日

「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの 見直し等に関する検討会」報告書について

本報告書（案）については、7月3日に開催されました「第8回介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会」において検討され、内容の大筋合意はされたものの、一部修文が提起され座長預かりとなっております。報告書が別添の通り取りまとめられましたのでお知らせいたします。

これからの介護を支える人材について
—新しい介護福祉士の養成と生涯を通じた能力開発に向けて—

介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの
見直し等に関する検討会

2006年7月5日

はじめに	3
I 介護福祉士を取り巻く状況	5
1 介護福祉士制度の概要と現状	5
2 社会経済の状況	6
3 介護ニーズの変化	8
II 求められる介護福祉士像	10
III 資格制度のあり方	11
1 基本的考え方	11
2 現在の資格取得の状況	11
3 改正の方向	12
IV 教育内容（カリキュラム・シラバス）の充実	14
1 基本的考え方	14
2 教育内容について	14
3 検討の進め方	17
4 実施時期	17
5 定期的見直し	17
V 実習のあり方	18
1 基本的考え方	18
2 実習の方法	18
3 実習施設のあり方	20
4 実習の対象となる施設の種別	21
VI 介護福祉士養成施設のあり方	22
1 基本的考え方	22
2 教員の資質の向上	22
3 施設設備等	23
4 既修得科目の取扱い	23
5 養成施設の情報提供・評価等	23
VII 資格取得後の生涯を通じた能力開発とキャリアアップ	24
1 基本的考え方	24
2 現任研修	24
3 専門介護福祉士	25
4 施設長等の資格	25
5 潜在的介護福祉士への研修	26
VIII 魅力と働きがいのある職場づくり	27
1 介護職員の就労の状況と課題	27

2	魅力と働きがいのある職場づくりの必要性.....	29
3	魅力と働きがいのある職場づくりに向けて.....	30

はじめに

- 介護福祉士制度は、福祉の増進を図り、介護の専門的能力を有する人材を養成、確保するため、国家資格として、1987年〔昭和62年〕に法律が制定され、1988年〔昭和63年〕から施行され、現在18年が経過したところである。この間、介護福祉士は増加を続け、2006年〔平成18年〕5月現在で約54万5千人となり、介護施設においては、介護職員の約4割が介護福祉士となるなど、介護現場の中核として活躍している。さらに昨年の介護保険法改正に際し、社会保障審議会介護保険部会から、介護職員については、「将来的には、任用資格は「介護福祉士」を基本とすべき」旨の提言も行われているところである。また、介護保険法改正の審議に際し、「介護需要が増大する中で、介護労働の魅力を高め、優秀な人材を介護の職場に確保していくため、介護労働者の雇用管理や労働条件の改善、研修体系や資格の在り方の見直しに取り組むこと。」との附帯決議も付されている。
- 我が国においては、引き続き急速な高齢化が進んでいるが、特に介護保険の利用者の約8割が75歳以上の後期高齢者であるなかで、後期高齢者が今後20年間で約1000万人から約2000万人に倍増することが予測されており、高齢者の介護ニーズに量的にも質的にも適切に対応していくことが極めて重要な課題である。
- 高齢者の分野では1990年〔平成2年〕以降、ゴールドプランの策定など基盤整備が進められ、さらに2000年〔平成12年〕には介護保険制度が導入されるなどの大きな変化があった。これに伴い、サービスの量的拡大が進み、また、「利用者本位」の視点が重視され、サービス利用者の「権利意識」や「コスト意識」が芽生えているなかで、サービスの量的拡大とともに、質的向上も求められている。
- また、障害者の分野においては、2003年〔平成15年〕に支援費制度が導入され、2005年〔平成17年〕には、障害種別ごとのサービスを一元化し、利用者本位のサービス体系とする障害者自立支援法が制定され、介護サービスについても、知的障害、精神障害、発達障害等がある者への対応など従来の身体介護以外のニーズへの対応が求められている。
- いうまでもなく介護サービスの質は、それを提供する人材の質の問題であり、今後さらに量的にも拡大し、また、高度化する介護ニーズに対応できる介護従事者の確保と質の向上が求められている。
- 本検討会は、こうした状況の変化や時代の要請のなかで、本年1月に、介

護福祉士のあり方などについて検討を行うために設置され、これまで8回にわたり、外部の有識者によるプレゼンテーションも含め広範囲にわたる検討を行ってきたところである。

本報告書は、これまでの本検討会の議論・検討を踏まえ、介護福祉士制度のこれまでの歩み、介護福祉士をめぐる状況の変化、求められる介護福祉士像について検討した上で、資格制度のあり方、教育内容の充実、実習のあり方、介護福祉士養成施設のあり方、資格取得後の生涯を通じた能力開発とキャリアアップ、さらに魅力と働きがいのある職場づくりについて課題と今後の方向性について取りまとめたものである。